

平成26年度 第2回江戸川区景観審議会 意見の概要

平成26年12月8日(月)に第2回江戸川区景観審議会が開催され、以下の3点について報告がありました。

- ・景観学習について
- ・JR小岩駅周辺地区について
- ・えどがわ百景について

平成26年度 第2回江戸川区景観審議会 意見の概要

報告事項1	景観学習について
【景観学習実施の報告】 景観学習を実施していくにあたり、その手法や目的、誰がどういった見識を持って伝えるか、といったことを明確にしていくことが大事であり、今後はそういった意識で行ってほしい。 江戸川区をよりいっそう多様性に富んだまちにしていくためにも、単純に知識を与えるといった手法ではなく、慎重に、幅広く深みのある手法をとっていかねばならない。景観における色彩の位置づけ、取扱いは非常に難しいものではあるので、色の判定をしてもらおうという手法ではなく、景観学習の入口としてまず色に興味を持ってもらい、導入の学習として色の効果を学んでもらうという手法が良いのではないかと思う。 今後の学校づくりとして、景観学習を授業の中にも組み込むなど、日常的な教育として取り組み、チャレンジしていくことは江戸川区にとって非常に大事なことである。	
報告事項2	JR小岩駅周辺地区について
【JR小岩駅周辺地区まちづくりについて】 小岩らしさということにこだわり過ぎず、日本がもともと持っていた良さ、日本らしさを取り入れていくような再開発を、江戸川区が先陣をきって行っていくことで、それ自体が小岩らしさに繋がっていくと思う。 江戸川区は多様性のあるまちであり、幾つかのパターンを組み合わせで選択するSCMFという手法は、その多様性と統一性を両方実現できる良い案であると思う。 小岩のまちをどこから見せるかといった視点場を考え、共有していくことが大切であり、見せ方を意識するという意味でも、一地区だけのガイドラインではなく、全体のマスタープラン、マスターコンセプトを用意すべき。 全体のマスターコンセプトの提案として、ダイバーシティ論(今回に関しては、自然・社会・文化・経済の持続性はそれら四つの多様性によるべき、といった提案)は、多様性に富んでいる江戸川区の地域性とも合うと思われる。持続可能な都市づくりができる素地が江戸川区にはあるので、小岩のまちづくりには今後も大いに期待している。	
報告事項3	えどがわ百景について
【えどがわ百景関連活動について】 意見無し	